

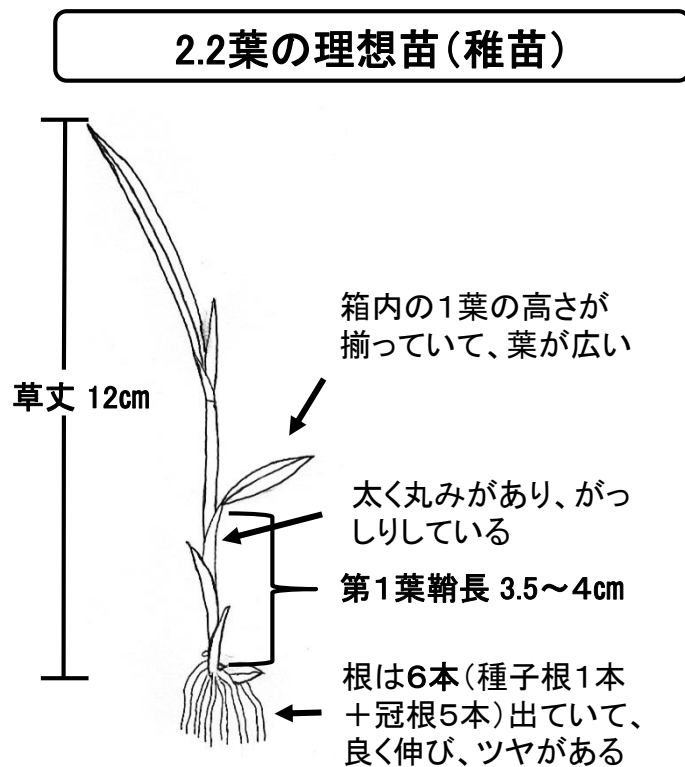
健苗を適期田植えで品質向上

1 温度管理と水管理に注意して健苗に仕上げましょう

○5月中旬までは、気温が高いと予想されています。(4月21日発表、北陸地方1か月予報)
晴れの日、ハウスを早めに十分開け、換気しましょう。

【硬化期間中の管理】

温度管理	<p>昼 15～20℃ 夜 10℃以上</p> <p>○ハウスビニールを十分開け、外気に慣らす。 ※低温時はムレ苗を防ぐため、8℃以下にならないよう管理する。</p>
水管理	<p>○灌水は、前半は1日1回、後半は乾き具合を見て午前・午後の2回をめやすに行う。 ※根張りが不良になるため、夕方の灌水は避ける。</p>



2 田植え前に弁当肥を施用しましょう

- 活着を早めるため、田植え4～5日前に窒素成分で1～2g/箱程度の弁当肥を施用しましょう。
- 施用後は肥料焼けを防ぐため、必ずかん水をしましょう。
- 軟弱・徒長苗の場合は、障害が発生する場合がありますので、控えましょう。

裏面に続く

不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでおたずねください。

3 適期に適正な栽植密度で田植えを行いましょ

- コシヒカリの田植えは、平坦地では5月20日～25日、山間地は5月中に終了するようにしましょ。田植えが遅くなる場合は、中苗・成苗をしましょ。
- 山沿いや低地力ほ場では、莖数不足にならないよう、栽植密度を高めにし、適正な生育量をめざしましょ。
- 初期生育の促進のため、植付け深さは2～3cmの浅植えにし、丁寧な田植え作業を心がけましょ。
- 全量基肥肥料のプラスチック殻がほ場から流出しないよう、代かきは浅水で行い、田植え前の強制落水はやめましょ。

早い田植えは、出穂期が早まり登熟期に高温に遭遇するリスクが高まらましょ。

遅い田植えは、出穂が遅れ登熟不良等のリスクが高まらましょ。



4 こまめな水管理で、初期生育促進を

- 田植え後活着するまでは、水深3～4cmで保温的な水管理を行い、植え傷みを防ぎましょ。
- 活着後は2～3cmのやや浅水にして水温上昇を図り、分けつの発生を促しましょ。
- ワキが発生した場合は根腐れを防ぐため、水の更新や夜間落水を行いましょ。

5 除草剤は適正に使用しましょ

- 一発処理剤の使用を基本としましょ。
- 初期除草剤を使用する場合は移植前処理を避け、田植え時又は田植え後に使用しましょ。
- 処理後7日間は止水とし、落水やかかけ流しはやめましょ。
- 処理後4～5日間は、湛水状態を保ちましょ。